

(国語科)

「言葉がもつよさを感じ、表現できる子どもをはぐくむ国語科の取り組み」

—主体的・対話的な説明的文章の読みを通して—

大阪市立苗代小学校 村田未沙輝

## 1. 研究主題設定の理由

本校児童らは以前までに研究を進めてきた「社会科」「プログラミング学習」の成果もあり、学びに対して主体的に取り組む児童が多くいる。一方で、昨今の相手が見えにくい社会状況下において、友だちとのコミュニケーション不足によるトラブルもあり、児童の対話への課題が見られた。そこで、本校では「主体的に物事に更に挑戦し、友だちとの協働を通して、よりよい未来を創造していく力」が、現在の苗代小学校の児童には必要であると考え、言葉の力に着目し、R4年度より国語科説明的文章の研究を進めていくこととした。

児童らは説明的文章を読む中で「この説明文の中のどれが事実で、どれが意見だろうか?」「どうして自分は『なるほど!』と思えたのだろうか?」「この表現は相手に、よりよく伝わるのかな?」「自分ならどう書くか?」といった思考を重ねていくこととなる。こういった児童の言葉に対する見方・考え方を働かせた思考は、相手を想像してその立場にたち、新たな発想や思考を創造していく姿につながるのではと考えた。

本校の「自主・自立の精神に富む人間性豊かな子どもを育てる」という学校教育目標をもとにして、「子どもをとりまく環境」と、「本校児童の実態」をふまえ、めざす子ども像を「言葉がもつよさを感じ、表現できる子ども」と設定し、それを研究の主題とした。

## 2. 研究の趣旨

「言葉がもつよさ」には、①言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、②言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、③言葉を通じて人や社会と関わり、自他の存在について理解を深めたりすることなどがある。こうしたことを、よさとして感じる姿をめざすこととする。

「表現できる」とは、国語科の学習で養った言語感覚をもって、具体的な言語活動の中で、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切であるかを判断することなどである。ここの具体的な言語活動とは、単元の中のⅡ次「広げ・深める場」、Ⅲ次「自己実現の場」はもちろん、他教科等の学習も含む。児童が生活の中に、国語科で学んだ資質・能力を発揮し、自らの日常をよりよいものにしていこうとしている姿をめざしている。

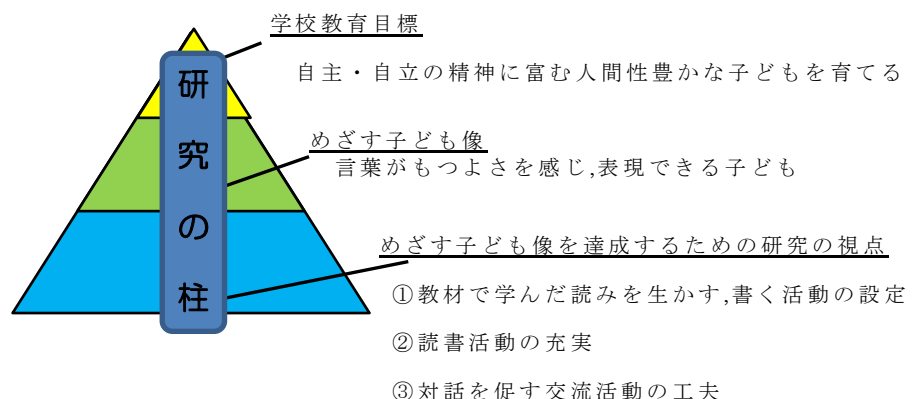


図 めざす子ども像を達成するための研究の構造図

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

#### 視点①教材で学んだ読みを生かす、書く活動の設定

- 教材で学んだ読みを生かす書く活動を単元の中に設定し、学習を構成する。
- メンター研修を活用した、学校全体での授業づくり。
- Ⅱ次「読むこと」と、Ⅲ次「書くこと」をつなぐ学習に焦点をおいた授業づくり。

#### 視点② 読書活動の充実

- 主幹学校司書や大阪市立図書館と連携し、単元と内容的に関わる多くの科学的読み物を児童の学習環境の中に置く。
- 読書に対する、苗代年間計画を作成する。
- 多様な本に触れるための味見読書時間を設定する。
- 本好きの児童を増やすためのアニメーション活動を導入する。

#### 視点③ 対話を促す交流活動の工夫

- 交流活動での苗代小学校の児童実態を鑑みた各学年のめざす姿を定め、系統性を持った取り組みができるよう系統表を作成する。
- 各学年でのめざす子ども像に対応した考えられる交流活動の具体例を示す。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- 学習構成を工夫し、「つなぐ」学習を設定したことにより、子どもの「読むこと」を通して学んだ力を「書くこと」に生かすことができた。それにより、子どもの「国語科で学習したことを自身の力として生かすことができる」という意識を高めることができた。
- 主幹学校司書・大阪市立図書館との連携や、学校全体での読書活動充実に対する取り組みの実施により、本好きな児童を増やすだけでなく、子どもたちの読書の幅を広げ、教科学習への興味付けにつなぐことができた。
- 低学年・中学年・高学年ごとに交流を通してめざす子ども像を設定し、学校として系統的できめ細かな対話に対する取り組みを行うことができた。

#### (2) 今後の課題

- 対話に向かう様子や、主体的に向かう態度をどのように評価するのか、評価方法についての手立てを見出していく。
- これからの未来、児童に求められる表現力をどのようにして伸ばしていくのか、特に「書く力」を育む指導法について工夫していく。
- 国語科の学習を中心にしてきた交流活動の工夫を他教科・領域でどのようにして生かし、積み重ねていくのか、また、質の高い交流活動をどのように展開していくとよいのか、吟味していく。
- 読書活動の充実をさらに教科学習と連携させ、言語力向上や読解力向上につなげる手立ての研究を進めていく。